

「2022 日本ユネスコエコパーク ネットワーク大会 in 只見」開催

「日本ユネスコエコパークネットワーク ～Japanese Biosphere Reserves Network～」とは？

日本で登録されている全国10地域のユネスコエコパーク間の情報交換や交流、協働を通じて、ユネスコエコパークの活動の発展と向上を目指すため、平成27年に設立されたものです。

毎年、各ユネスコエコパークの担当者や文部科学省など関係者が国内のユネスコエコパーク登録地に集まり、事業報告や意見交換、現地視察などを行う「日本ユネスコエコパークネットワーク大会」が開催されています。今年7月26日、27日に只見町で開催されました。「日本ユネスコエコパークネットワーク大会」の前身である「第1回ユネスコエコパークネットワーク会議」が只見町で開催されてから、約10年ぶりの只見町開催となります。



「2022 日本ユネスコエコパークネットワーク大会」

今回の日本ユネスコエコパークネットワーク大会は、総会、意見交換会、現地視察の3部制で行われました。総会では、渡部町長が「只見町で開催した第1回会議時の登録地は5地域だった。それから約10年で10地域が登録され、平成29年にイオン環境財団と連携協定を締結した。『人間と生物圏とのより良い関係を築いていく』というユネスコエコパークの理念のもと、各登録地が抱える課題の解決に向けて、情報交換出来るような組織を目指していく」と挨拶しました。



▲大会参加者での集合写真



▲会場後方に設置された国内各登録地の紹介パネル

総会後の意見交換会では、参加したユネスコエコパークの概要や各地域での自然やアウトドアを利用した観光促進、ガイド制度、特産品の認証制度などの説明があり、それらについて活発な意見交換や情報共有が行われました。只見町からは脱炭素・森林資源の持続可能な利活用を目指す取り組みや、伝統的な文化・後継者継承のためのマタギサミットの開催などを紹介しました。最後に、文部科学省国際統括官付国際統括官補佐の堀尾多香氏からMAB計画^(※1)に関する国内外の動向についての説明と、公益財団法人日本自然保護協会生物多様性保全部主任の朱宮丈晴氏からユネスコ未来共創プラットフォーム事業^(※2)の説明が行われました。



▲各ユネスコエコパークの概要を説明する担当者



▲活発な意見交換が行われました

27日に行われた現地視察では、2つのテーマに分かれ、只見町内を視察しました。

第1コースでは「ダムによって作られた自然環境・生物多様性と発電所内部見学」をテーマに、田子倉ダムの奥に広がる只見ユネスコエコパーク核心地域と、田子倉ダムの視察を行いました。

第2コースは「日本一“ちいさな蒸留所” ねっかに学ぶ地域づくりと観察の森見学」をテーマに、ねっか蒸留所内部の見学を行いました。また、蒸留所の上流域に位置し、水源林となっている「ただみ観察の森 梁取のブナ林」に入り、只見町のシンボルであるブナや人との関わりについて視察を行いました。



▲ただみ観察の森 梁取のブナ林の視察では、間近で只見町の自然を観察しました



▲田子倉ダム視察では、株式会社電源開発の方から田子倉ダムの規模などの説明を受けました

日本ユネスコエコパークネットワークのこれから

ユネスコエコパークの最大の魅力は人と自然とが関わりあって生きていることです。ユネスコエコパークを町づくりの枠組みとして、貴重な自然環境を守り、自然を上手く活かした持続可能な地域振興を目指しています。本日本ユネスコエコパークネットワークでは、これからも登録地間の情報交換、交流、協働を通じてユネスコエコパークの活動の発展と向上、課題解決のための活動をしていきます。

※1：MAB計画（「MAB（マブ）」＝人間と生物圏）

「人と自然の共生」を目的としたユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の取組

※2：ユネスコ未来共創プラットフォーム事業

世界や地域の課題解決のため、専門家や関係者の知見を得てユネスコ活動を推進することを目的とした文部科学省の事業